

中学校英語における入門期カリキュラムの研究

－小中のスムーズな接続を目指して－

鳴門教育大学大学院 学校教育研究科 高度学校教育実践専攻
教職実践力高度化コース 指導教官 前田 洋一
香美市立鏡野中学校 教諭 福留 雅子

1 はじめに

2011年度より小学校において学習指導要領が全面実施され、第5、6学年で外国語活動が必修化された時には、外国語活動導入以前の中学1年生とは違い、小学校段階でかなりの量の英語の表現を学習しており、中学校の最初の英語の授業では年々、生徒の英語に対する意識が高くなってきていたことに驚いたことを今でも覚えている。そのような状況の中で、従来入門期の指導方法から大幅な方向転換をする必要性を感じ、数人の教員と合同で入門期のカリキュラムを作成したことがある。そうすると目的意識を持って計画的に授業を進めることができた。

今、また教育界が大きく動いている。2017年3月に次期学習指導要領が公示された。東京オリンピック開催の年である2020年に全面実施される。注目すべきは外国語活動が中学年へと低年齢化され、高学年では外国語が教科化された点である。英語が小学校においても正式な教科として位置づけられることによって、小中のスムーズな接続が今まで以上に重要となってくる。中学校での指導内容の一部が小学校へと前倒しされており、かつ、中学校での授業は英語で行うことを基本とするという指針や、知識偏重から脱却すると同時に、思考力や表現力を育成する方針が示された。中学校では2021年4月に全面実施される予定だが、2018年4月から小学校で先行実施が始まるので、今までとはまた違う生徒が入学してくることになる。かなりの言語活動を小学校で学習済みになり、基本的な言語材料にも出会うことになっている。英語の授業では大きな変革を求められる可能性がある。今回の改訂で、小学校に新たに外国語科が導入されたことを踏まえ、これまでの実践を見直し、中学校の入門期の授業の改善、小中のスムーズな接続を考えたいと思い、上記のテーマを設定した。

2 研究の目的

この研究は、2020年からの小学校英語の教科化に伴い、教科化後の小中連携を視野に入れた中学校接続期における単元指導計画の内容を試案している。2018年の4月から小学校で先行実施が始まるので、2019年度からこの試案を中学校で使用しながら改善をしていきたいと考えている。

3 研究内容

(1) 先行研究

ア 新学習指導要領

小学校第3、4学年では外国語活動（英語）を年間35時間学習し、第5、6学年では教科として70時間、合計210時間学習するようになる。今まで「慣れ親しみ」を目標としていたことが教科化となったことで「定着」を目標として学習する。語彙は300語程度から600～700語程度の増加となり、アルファベットの活字体の大文字及び小文字を識別し、発音でき、正確に書けるようになってから中学校に入学してくることとなる。この改訂はとても大きなことである。中学校の入門期ではこれまで最初は音声から入っていたが、「書く」練習が始まると生徒が難しく感じ、英語に対する意欲の低下が見られることがあった。しかし、指導要領改訂後では、アルファベットの文字は書けるようになり、

音声で十分慣れ親しんだ語句や基本的な表現を書き写すことを練習して中学校に入学してくるようになるので、入門期の指導では音声面だけではなく、書くことも効果的に取り入れるように意識して入門期の指導を考えないといけない。

また、小学校と中学校の共通の目標として場面に応じて自分の考えを実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることが目標とされている。今まで外国語科の領域は4つ（聞くこと 読むこと 話すこと 書くこと）であったが、話すことが2つ（即興でのやりとりと発表）に分かれ、5つの領域となる。即興で話す力をつけるためには、太田（2017）は、個から始まり、個に戻すことが協働学習であると述べている。最初は新出文型の基本的な練習から入り慣れさせてから、次にパターン練習や言い換え等をして段階を上げる。そうして場面を与えて自己表現のアウトプットをさせるところまで指導して即興で話せる力がつく。入門期の指導では、小学校で学習したことをどのくらい理解しているかやりとりを通して確認しながら、単なるリピートやパターン練習だけで終わらず、「場面」を意識して、自分の考えを述べるような自己表現活動を取り入れる。

イ 英語科における主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）

今回の指導要領の改訂のポイントの一つとして、どのように学ぶか「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められているが、和泉（2017）によれば、英語教育におけるアクティブ・ラーニングで最も大切なことは、生徒の頭が活性化されているか、つまり脳内がアクティブに活動するようになっているかが鍵となると述べている。田尻（2017）も、先に点数を出すための、結果を求めるための授業になると面白くなる。それが授業を壊す要因になっている。良い指示・発問で脳が勝手に動くこと、子ども中心の活動をアクティブ・ラーニングという述べている。加賀田（2015）は「これは試験に出るから覚えておきなさい」という指導ではなく、子どもたちの人間、社会、文化に対する理解を高めたり、感性を響かせながら技能面の学修への動機づけを高める指導を心がけたいと述べている。暗記中心の浅い学びではなく、思考を伴い、自分の知識を選択して使ったり、互いのやり取りの中で学びを深めていったりする、子どもがやりたくなるような、心が動くような生徒主体の授業を心掛けたい。

ウ 特別支援の理解

特別支援の理解として、小野（2017）は、医学的・脳科学的な裏付けもある子どもたちへの対応の基本技術を述べている。また、竹田（2017）は、英語教育の課題（LD）について述べている。小学校外国語活動との接続の工夫について、西坂（2017）は音と文字の関係について学ぶフォニックスについて発表をしている。ディスレクシアの生徒や書字障害の生徒には読み書きを構成する基本的認知である音韻意識へのアプローチ（フォニックス指導）が有効と考えられる。また、音・文字変換のスピードをあげる指導、書字指導では、左右障害への指導、視覚認知への指導など生徒の特性理解をし、背景にある認知の弱さを考慮した指導を行いたい。

(2) 中学校入門期 指導計画（試案）

新学習指導要領は公示されたが、新しい中学校の教科書は作成中であり、いつ検定を経て採択されるか分からない為、新学習指導要領の内容と現行の教科書を使用して中学校入門期の試案を立てることとする。現行の教科書は6社（COLUMBUS、NEW CROWN、NEW HORIZON、ONE WORLD、SUNSHINE、TOTAL ENGLISH）あり、それぞれの教科書会社が作成している年間指導計画例では入門期の扱いが7時間から9時間となっている。筆者は置籍校で使用しているSUNSHINEを基に入門期を計画する。現行のSUNSHINEの教科書の計画例では7時間扱いとなっているが、この試案では「書くこと」を活動に入れるため時間を要するので、1時間プラスして8時間の設定で行う。尚、この試案は全く新しく作成したものではなく、筆者が勉強会等で学んだことを取り入れながら実践してきたものの中で良かった点は残しつつ、先行研究から学んだものを取り入れ、改善したものである。

ア 入門期の指導計画のねらい

- (1) 中学校英語学習への期待感をもたせる。
- (2) 中学校での英語の授業におけるルールを理解させる。
- (3) 小学校での英語の習熟の状況を把握し、さらなる理解を深め、定着を図る。
- (4) 音声面 (f、th) を重視し、アルファベットの名前と音の一致ができるようにする。

イ 入門期(単元)でつきたい力

新学習指導要領では、4技能の1つの「話すこと」が「話すこと [やり取り]」と「話すこと [発表]」に分かれて記載されているが、ここでは、「話すこと」の2つの技能をまとめて記載する。各時間のつきたい力は次のように設定した。

聞くこと

- 自分や友達の日常生活における事柄について、簡単な英語を使ったやりとりや発表を聞いて理解することができる。
- 基本的なクラスルームイングリッシュを理解し、指示に従うことができる。

読むこと

- 自分や友達の日常生活の事柄について、音声で慣れ親しんだ簡単な単語や表現を推測したり、指導者の後に続いて発音したりすることができる。
- アルファベットの大文字・小文字を正確に発音することができる。

話すこと

- 自分や友達の身の回りの物に関する事柄について、簡単な英語を使って、やりとりや発表をすることができる。
- 英語で簡単なあいさつをすることができる。

書くこと

- 自分や友達の身近で簡単な事柄について、例文を参考に音声で慣れ親しんだ簡単な単語や表現を用いて、なぞったり書き写したりすることができる。
- アルファベットの大文字・小文字を正確に書くことができる。

ウ 具体的な評価規準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①小学校で既習の単語や表現を理解している。</p> <p>②アルファベットの名前や音を正しく発音したり書いたりできる。 (f、th等を重視する)</p> <p>③音声で慣れ親しんだ簡単な単語や表現を、語順を意識しながらなぞったり書き写したりすることができる。</p> <p>④簡単なあいさつができる。</p> <p>⑤クラスルームイングリッシュを聞いて指示に従うことができる。</p> <p>⑥英語の辞書の基本的な使い方を理解している。</p>	<p>①自分や身近な事柄について、簡単な英語を使ってやりとりや発表をしている。</p> <p>②音声で慣れ親しんだ簡単な単語や表現を用いて、自分のことについて話したり書いたりしている。</p> <p>③友達の自己紹介を聞き、感想や意見を英語で発表している。</p>	<p>①相手意識を持ち、英語を用いて、コミュニケーションを図ろうとしている。</p> <p>②アルファベットの名前や音を正しく発音しようとしている。</p> <p>③音声で慣れ親しんだ簡単な単語や表現を書こうとしている。</p>

エ 指導と評価の計画（全8時間）

[L…Listening、 S…Speaking、 R…Reading、 W…Writing]

時	学習内容	評 価				
		知	表	態	評価規準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のルールを知る。 ・JTE/ALT の自己紹介を聞く。(L) ・簡単な英語の質問に答える。(S) 	○			ア①④	会話 Reflection シート
2	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の音と文字を一致させる。(R、S) ・フォニックス発音練習 (S) ・教室で普段使う英語を知る。(L) 	○		○	ウ② ア⑤	発音確認 行動観察 Reflection シート
3	<ul style="list-style-type: none"> ・フォニックス発音練習・テスト (S) ・身近なことについて英語で話す。(S) ・大文字を書く。(W) ・身の回りの英語をなぞり書きする。(W) 	○		○	ア② ウ① ウ③	発音確認 活動観察 ワークシート Reflection シート
4	<ul style="list-style-type: none"> ・フォニックス発音練習・テスト (未合格者) ・小文字を書く。(W) ・自分の好きなことについて会話する。(L、S) ・会話した表現をなぞり書きする。(W) 	○		○	ア② ウ① ウ③	発音確認 行動観察 ワークシート Reflection シート
5	<ul style="list-style-type: none"> ・フォニックス発音練習・テスト (未合格者) ・フォニックスカルタ (L) ・週末することについて英語で会話する。(S) ・自分の話したことを書く。(W) 	○	○		ア② イ①	発音確認 行動観察 ワークシート Reflection シート
6	<ul style="list-style-type: none"> ・フォニックス発音練習・テスト (未合格者) ・文字をつなげて単語を読む。(R) ・キーサウンドゲーム (L) ・英和辞典の基本的な使い方を確認する。 	○			ア② ア⑥	発音確認 行動観察 ワークシート Reflection シート
7	<ul style="list-style-type: none"> ・フォニックス発音練習・テスト (未合格者) ・ディクテーション ・自己紹介文のモデル文を聞き、自分の紹介文を作成する。(W) ・自己紹介の発表練習をする。(L、S) 	○	○		ア② イ②	発音確認 行動観察 ワークシート Reflection シート
8	<ul style="list-style-type: none"> ・フォニックス発音練習・テスト (未合格者) ・自己紹介発表(L、S) 		○		イ② イ③	発表 Reflection シート

オ 指導内容（全ての指導案やワークシートは参考資料を参照）

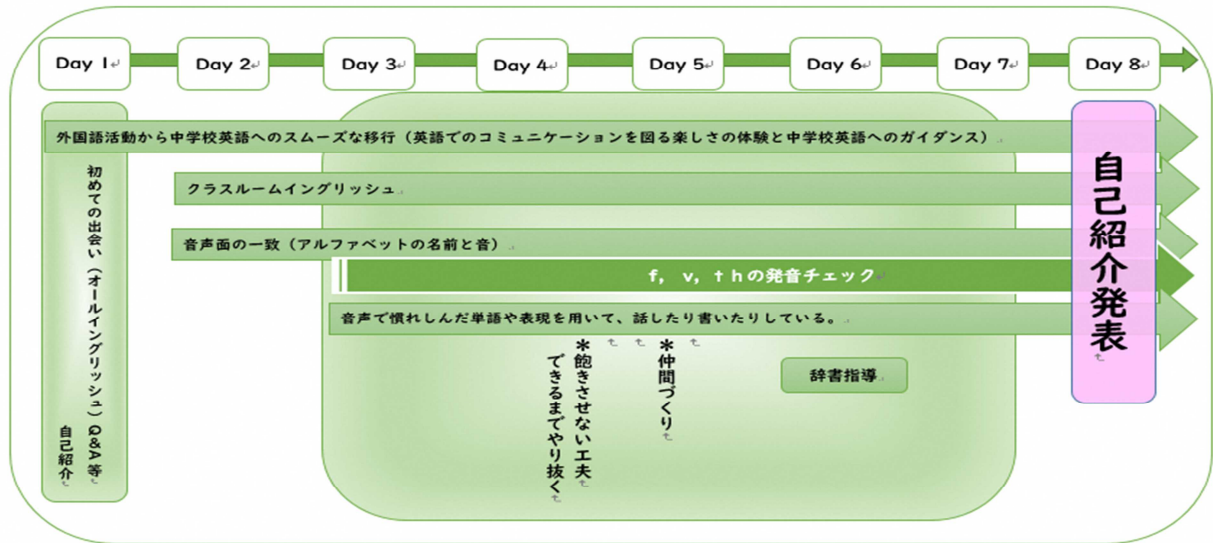


図2 最初の8時間イメージ図

- Day 1
1. あいさつ
 2. 教師の自己紹介
 3. 生徒1人1人へのQ&A
 4. 英語の授業のルール
 5. アンケート
 6. 持参物の確認
 7. 振り返り

- Day 2
1. あいさつ
 2. 違う出身小学校の人と簡単な会話
 3. アルファベットの発音練習①
 4. アルファベット共通点クイズ
 5. アルファベット神経衰弱
 6. クラスルームイングリッシュ
 7. 振り返り

- Day 3
1. あいさつ
 2. f、thの発音チェック①
 3. アルファベットの発音練習②
 4. アルファベットの大文字を書く。
 5. 身の回りの英語
(What's this?ペアで会話)
 6. 話した内容を書く。

- Day 4
1. あいさつ
 2. f、thの発音チェック②
 3. アルファベットの発音練習③
 4. アルファベットの小文字を書く。
 5. 基本的な単語や表現①
(スポーツ・食べ物・教科等)
 6. 話した内容を書く。

- Day 5
1. あいさつ
 2. f、th発音チェック③
 3. アルファベットの発音練習④
 4. フォニックスカルタ
 5. 基本的な単語や表現②
(休日にする事)
 6. 話した内容を書く。

- Day 6
1. あいさつ
 2. f、thの発音チェック④
 3. アルファベットの発音練習⑤
 4. 音の足し算
 5. キーサウンドゲーム
 6. 辞書を使っての活動
 7. 振り返り

Day 7

1. あいさつ
2. f、th の発音チェック⑤
3. アルファベットの発音練習⑥
4. ディクテーション
5. 自己紹介文作成準備
6. 振り返り

Day 8

1. あいさつ
2. f、th の発音チェック⑥
3. アルファベットの発音練習⑦
4. 自己紹介練習
5. 自己紹介発表
6. 振り返り

中学初めての授業は、生徒はやる気と期待を持って、授業に臨んでいる。まず、英語専門の教師として、授業の挨拶から全てオールイングリッシュでスタートさせ、これが中学の授業なんだという雰囲気を作りたい。そして、テンポよく簡単に自己紹介をし、一人ひとりに小学校での既習の内容を質問し、習熟の状況を確認する。聞いている生徒が手持無沙汰にならないように、生徒が答えた中から後で質問することも伝える。その後から日本語で、授業のルール等を確認する。

この入門期は、アルファベットの名前と音の一致ができるように、色々な活動をして、飽きさせない工夫をして定着を図りたい。2時間目は、アルファベットの発音ができるか確認した後、アルファベットのクイズをしたりゲームをしたりして、音と文字の関係を理解させる。最後はクラスルームイングリッシュを口答で指示し、生徒に動作させる。これは次からの授業でも使っていながら慣れさせていく。

3時間目から、1人ずつに、「How are you?」と質問し、「Fine, thank you.」と発音させ、f と th の発音を確認する。入門期の発音指導はとても重要だと考える。ここで厳しくチェックすることで、後々の授業で丁寧に発音をすることを目的としている。正しく発音できると、リスニングの力も伸びる。また、綴りを書く時も区別がつくようになる。全員が合格できるまで授業の最初に毎回位置付けている。また、フォニックスにも慣れさせるために、帯学習で、「a、a、a、a、A、b、b、b、b、B」とリズムに乗って、発音練習も行っていく。そして、この日からペアでの英会話が始まり、音声で慣れ親しんだ内容を「書く」ことを指導していく。これまでの入門期指導では「書くこと」はアルファベットのみだったので、ここが新しい指導案のポイントの1つである。

4時間目は、ペアでの英会話を最後の活動の自己紹介に向けて、自分の好きなことやできることを like や can を用いてやりとりを行う。そして話したことを書くことにつなげる。f と th の発音チェックは合格してない生徒だけとする。

5時間目の、フォニックスカルタは、cat、cap、cup 等、文字や音が似たカードを準備する。楽しく集中して取り組むことができる。この日の英会話は休日に行くことをペアでやりとりする。

6時間目は、フォニックスのルールで発音できる単語の予測読みをさせる。また、小学校の時にも行ったキーサウンドゲームも行う。最後に辞書の引き方を確認する。

3時間目から5時間目までのペアでの会話の内容を振り返ると、自己紹介の文が書けるようになっていたので、7時間目に書き溜めたワークシートを参考に自己紹介文を作成させる。仕上がったら評価表をもとに、ペアで助言をし合い、よりよいものとなるように練習をさせる。

8時間目までに、f と th の発音は全員合格させたい。自己紹介の発表は、全体の前で行う。発表だけで終わらずに、スピーチの感想の例を生徒に配布して、生徒同士で「Your gestures are great.」「I enjoyed your speech.」など良かった点を伝えあうことで、仲間づくりもしていきたい。褒め合って人間関係を築きながら英語力をつけていく。

4 まとめ

2017年度は新学習指導要領の内容は周知徹底であり、小学校の外国語活動の授業内容はあまり変わっていない。2018年度から移行期間として先行実施が始まるので、作成した指導案の試案については、2019

年度から使用したいと考えている。しかし、生徒の理解度を見て、使用できる内容については2018年度から実施したい。また、市の教科部会や、高知県の報告書等でこの実践を共有したいと考えている。

今、中学校教師として変わっていくべきことは大きく3つあると考える。1つ目は、教師主導型で文法の説明をしたり、活動をさせたりしているようで、書いてあることを復唱させる指導、見せかけのコミュニケーションをしている活動等である。簡単で誰もができる活動かもしれないが、自分の気持ちを言わなくても会話が成り立ち、思考を深めることがない。生徒が中心となる授業を組み立てていかなければならない。言うことは簡単だが、その為には教師は教材研究をし、ゴールをしっかりと定めて指導計画を立てなければならない。どんなに忙しくても自己研鑽を積んでいかなければならない。

2つ目は、生徒理解と生徒指導である。生徒のことをよく知らずに独りよがりの授業をすると、生徒の心は離れ、できることもしなくなる。特別支援の理解や、クラスの間人間関係を知り、必要であれば英語の授業だけのペアをつくることも考えたい。教師と生徒、生徒同士の間人間関係が成り立ち、授業は成立する。授業の中で生徒の変容を見抜き、タイミング良く褒めるところは褒め、厳しく評価すべき所はしながら生徒の英語力をしっかりとつきたい。

3つ目は、小中連携を今まで以上に密にしていきたい。小学校の外国語活動が導入された際、小学校教員は今まで行ったことのない指導に対して不安を抱いていたが、実践を重ねながら年々授業が素晴らしいものになっている。それに対して中学校は、外国語活動導入前と授業の指導の仕方があまり変わっていない教員は少なくないのではないかと考える。今後は小学校高学年で、外国語活動ではなくて「教科」となる。小学校で学んだことを中学校でスムーズに学んでいけるように、可能な限り、小学校の授業を参観しに行ったり、研修会で指導案を共有したりしたい。そして、中学校でも十分力をつけて、高校に送り出したい。

〈引用・参考文献〉

◆小学校学習指導要領解説 外国語編

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/07/25/1387017_11_1.pdf (2017年10月現在)

◆中学校学習指導要領解説 外国語編

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/07/25/1387018_10_1.pdf (2017年10月現在)

◆大田 洋(2017) 新学習指導要領を踏まえた授業づくりのポイント講演 資料

◆和泉 伸一(2016) 『フォーカス・オン・フォームとCLILの英語授業』、アルク

◆和泉 伸一(2017) 「英語教育におけるアクティブ・ラーニングとは？」『全英連会誌』「55」 pp. 3-8

◆北原 延晃(2010) 『英語授業の「幹」をつくる本』(上巻)(下巻)、ベネッセコーポレーション

◆根岸 雅史(2017) 『テストが導く英語教育改革「無責任なテスト」への処方箋、三省堂

◆小野 隆行(2015) 『発達障がいの子がいるから素晴らしいクラスができる!』、学芸みらい社

◆小野 隆行(2016) 『特別支援教育が変わるもう一步の詰め』、学芸みらい社

◆竹田 契一(2017) 全国英語教育学会第43回島根研究大会 資料

◆西坂 高志(2017) 「小学校外国語活動との接続の工夫—音と文字とをつなぐ中学校英語科の入門期の指導—」『英語授業研究学会 全国大会発表資料集』、「29」 pp. 91-92

◆日本児童英語教育学会・英語授業研究学会(関西支部) 合同プロジェクト(代表 樋口 忠彦)(2017) 「小中連携を踏まえた中学校接続期の単元計画試案」『英語授業研究学会 全国大会発表資料集』、「29」 pp. 93-94、資料

◆吉田 晴也・加賀田 哲也・泉恵美子編著 『英語科・外国語活動の理論と実践』、あいり出版

参考資料 1 (指導案試案)

◆ 1 時間目 (1 / 8 時間)

本時の目標	○中学校での学習の仕方を理解する。 ○自己紹介を聞いたり、英語の質問に答えたりすることができる。		
観点別評価規準	○小学校で既習の単語や表現を理解している。 ○簡単なあいさつができる。		
語彙・表現	① あいさつ ② 自己紹介 ③ 好きなスポーツや食べ物等 ④ 出身		
学習の展開			
	学習内容	指導上の留意事項 ☆外国語活動を踏まえた工夫	評価方法
導 入	<p>1. Greeting</p> <p>T: Good morning, everyone. S: Good morning, Ms. Fukudome / (Mr. <u>ALT</u> の名) T: How are you? S: <u>I'm happy</u>. How are you? T: I'm fine, thank you.</p>	<p>○全て英語で行う。</p> <p>○Ms. /Mr. の指導を行う。 ○下線部は生徒が自由に答える。</p>	
展 開	<p>2. Self-Intro of JTEs and ALT</p> <p>3. The first encounter to teachers</p> <p>4. 英語の授業のルールを確認する。</p> <p>5. 学習状況アンケート (Can-do)</p>	<p>☆ジェスチャーや絵/写真を用いて、「出身」や「好きなもの」等を紹介する。</p> <p>☆JTE が生徒一人一人に好きな食べ物・スポーツ等を尋ねて行く。</p> <p>○全員の質問の後に、生徒が答えた内容からJTE(いればALT)がクイズを出すことを伝える。</p> <p>☆8割以上自分ができると思う項目に自由に○をつけさせる。</p>	会話
ま と め	<p>6. 次時の内容を確認する。</p> <p>7. Reflection (資料①)</p>		Reflection シート

◆ 2時間目 (2 / 8時間)

本時の目標	○英語の音と文字を一致させる。 ○教室で普段使う英語を知る。								
観点別評価規準	○アルファベットの名前や音を正しく発音しようとしている。 ○クラスルームイングリッシュを聞いて行動できている。								
語彙・表現	①アルファベット ②クラスルームイングリッシュ								
学習の展開									
	学習内容	指導上の留意事項 ☆外国語活動を踏まえた工夫	評価方法						
導入	1. Greeting (<u>F</u> ine, <u>t</u> hank you.の発音練習を行う)	○次回から1人ずつf, thの発音チェックをすることを伝える。	行動観察						
展開	2. 英会話	○できるだけまだ話したことない違う小学校から来た5人(同性3人, 異性2人)とあいさつをする。Helloと言った人から始める。	行動観察						
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">A: Hello.</td> <td style="width: 50%;">B: Hello.</td> </tr> <tr> <td>A: My name is _____.</td> <td>B: My name is _____.</td> </tr> <tr> <td>A: Nice to meet you.</td> <td>B: Nice to meet you, too.</td> </tr> </table>			A: Hello.	B: Hello.	A: My name is _____.	B: My name is _____.	A: Nice to meet you.	B: Nice to meet you, too.
	A: Hello.	B: Hello.							
	A: My name is _____.	B: My name is _____.							
	A: Nice to meet you.	B: Nice to meet you, too.							
3. アルファベットの発音練習 ①生徒のみで順に発音する。 ②教師の後に正確に発音する。	○あいさつした友達の名前をカタカナ又はローマ字(ヘボン式)でノートに書かせる。 ☆日本語発音のように発音している文字に対して必要であれば矯正する。								
4. アルファベット共通点クイズ ① (B C D G P T V Z) ② (F L M N S X) ③ (A E I O U) ④ (J K)	☆小学校での学習により文字は既習であるが音は触れる程度なので, 生徒の力を確認したい。 ○3回見せても分からない場合はヒントを与える。								
5. アルファベットの発音練習①	○リズムに乗せてA~Zまでとthを練習する。								
aaaa(ア), A(エイ)bbbb(ブ), B(ビイ)…									
	6. アルファベットのゲーム (大文字・小文字神経衰弱) 7. Classroom English	○4人グループで行う。時間があれば数回行う。 ☆小学校で聞いたことがなかった表現でも, 実際に行動を伴いながら, 意味理解につなげる。	行動観察						
まとめ	8. 次時の内容を確認する。 9. Reflection		Reflection シート						

◆ 4 時間目 (4 / 8 時間)

本時の目標	○自分の好きなことについて積極的に会話をする。 ○小文字を正しく書くことができる。		
観点別評価規準	○相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとしている。 ○小文字を正しく書くことができる。 ○音声で慣れ親しんだ表現を書こうとしている。		
語彙・表現	① あいさつ ②アルファベット (小文字) ③好き/嫌いなこと		
学習の展開			
	学習内容	指導上の留意事項 ☆外国語活動を踏まえた工夫	評価方法
導 入	1. Greeting 2. f, th の発音チェック	○前回一発合格していなかった生徒のみ確認	1人ずつ確認
展 開	3. アルファベットの発音練習③ 4. アルファベットの小文字を書く。 ① a→z まで順に正確に書く。 ②指導者の見せる単語をノートに書く。大文字⇔小文字 例) CAT→cat 5. 基本的な単語や表現① スポーツ, 食べ物, 教科などについて, like や can を使ってやりとりを行う。その際, 気持ちなどを表す表現を付け加える。 音声に慣れ親しんだ後, 目標文をなぞり書きする。(資料③)	○リズムに乗せて A~Z までと th を練習する。 ☆ノートに何も見ずに書かせ, 分からない文字は教科書を見て赤で書くことを促す。終わった生徒から自分で採点をさせる。 ○書かせる前に, 音と文字が一致しているか発音をさせて確認する。 ☆ジェスチャーをつけながら会話をするを促す。 ○活動の途中で何組かに発表させて良い点を全体で共有する。 ○早く会話が終わったペアはテーマを変えて会話を続けることを促す。 ☆目標文をなぞり書きする際, 部分的に自分の話した内容も数文書かせる。	ノート 活動観察 ワークシート

		<p style="text-align: center;">〈肯定〉</p> <p>A: Do you like basketball? B: Yes, I do.</p> <p>A: Oh, you like basketball. Me, too. / That's nice.</p> <p style="text-align: center;">〈否定〉</p> <p style="text-align: center;">B: No, I don't.</p> <p>A: Oh really. / Oh, I see.</p> <p style="text-align: center;">〈肯定〉</p> <p>A: Can you play the piano? B: Yes, I can.</p> <p>A: You can play the piano. That's good. / That's great.</p> <p style="text-align: center;">〈否定〉</p> <p style="text-align: center;">B: No, I can't.</p> <p>A: That's OK. You can't play the piano but can you play ...?</p> <p style="text-align: center;">最後に Nice talking to you. をお互いに言い合う。</p>	
ま と め	<p>6. 次時の内容を確認する。</p> <p>7. Reflection</p>		Reflection シート

◆ 6時間目（6／8時間）

本時の目標	○文字の音をつなげて単語を発音できる。 ○英和辞典の構成や引き方が理解できる。		
観点別評価規準	○アルファベットの音を正しく発音している。 ○英語の辞書の基本的な使い方を理解している。		
語彙・表現	① あいさつ ②アルファベット ③形や音の似た単語		
学習の展開			
	学習内容	指導上の留意事項 ☆外国語活動を踏まえた工夫	評価方法
導 入	1. Greeting 2. f, thの発音チェック	○前回一発合格していなかった生徒のみ確認	1人ずつ確認
展 開	3. アルファベットの発音練習⑤ 4. 音の足し算 アルファベットを組み合わせた単語を読む。 例) b+e+d=bed p+e+t=pet… 5. キーサウンドゲーム 6. 3～4文字以上の単語を推測しながら読む。その後辞書で発音を確認し、品詞、意味、例文等をワークシートに書く。(資料⑤)	○リズムに乗せてA～Zまでとthを練習する。 ○短い単語から生徒の理解度によって順に長くしていく。 ○音や文字の似た単語を尋ねて音を識別させる。 ☆ペアの間に消しゴムを置き、他の単語はリピートし、キーワードが出たら取ることを促す。 ○共通する初頭音や終わりの音に気付かせる。 例) 初等音: <u>s</u> it, <u>s</u> ix, <u>s</u> et, etc. 終わりの音: do <u>t</u> , pe <u>t</u> , ra <u>t</u> , etc. 例) spring, well, do等 ○品詞や複数意味のあること等を確認する。	観察 ワークシート
ま と め	7. 次時の内容を確認する。 8. Reflection		Reflection シート

◆ 7時間目（7／8時間）

本時の目標	自己紹介文を作成することができる。 アルファベットの音を正しく書くことができる。		
観点別評価規準	アルファベットの音を聞いて、正しく書いている。 音声で慣れ親しんだ簡単な単語や表現を用いて、自己紹介文を書いている。		
語彙・表現	① あいさつ ②自己紹介		
学習の展開			
	学習内容	指導上の留意事項 ☆外国語活動を踏まえた工夫	評価方法
導 入	1. Greeting 2. f, th の発音チェック	○前回は発合格していなかった生徒のみ確認	1人ずつ確認
展 開	3. アルファベットの発音練習⑥ 4. ディクテーション 指導者の言う単語を聞いて、空欄のアルファベット（1文字）を書く。 例) (p)en, s(u)n, ca(t) （資料⑥） 5. 自己紹介文作成準備 ①指導者の自己紹介を聞く。 ②モデル文を参考にして簡単な自己紹介を作成する。（次時に発表） ③書き終わったらペアで交換し、チェック表を元にピアヘルピングを行う。（資料⑥）	○リズムに乗せてA～Zまでとthを練習する。 ○前時までに出した単語を使用する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">Hello. My name is <u>Noriko Fukudome</u>. Please call me <u>Ms. Fukudome</u>. My birthday is <u>April 30th</u>. I like <u>sushi</u>. I can <u>sing songs well</u>. I enjoy <u>cooking</u>. I make cakes on weekends.</div> ☆小学校での既習の表現を生徒から引き出し、板書する。 ○必要に応じて辞書を使わせる。	ワークシート ノート
ま と め	6. 次時の内容を確認する。 7. Reflection		Reflection シート

◆ 8時間目（8／8時間）

本時の目標	○自己紹介の発表をすることができる。 ○発表を聞いて感想や評価を言うことができる。		
観点別評価規準	○音声で慣れ親しんだ簡単な単語や表現を用いて、自己紹介を発表することができる。 ○友だちの自己紹介を推測しながら聞き、英語で感想や評価をしている。		
語彙・表現	① あいさつ ②自己紹介 ③感想・評価		
学習の展開			
	学習内容	指導上の留意事項 ☆外国語活動を踏まえた工夫	評価方法
導 入	1. Greeting 2. f, th の発音チェック	○前回一発合格していなかった生徒のみ確認	1人ずつ確認
展 開	3. アルファベットの発音練習⑦ 4. 自己紹介練習 ペアで発表練習し、感想・評価を相互に行う。 5. 自己紹介発表 ・1人の発表が終わる毎にスピーチ評価表（資料⑦）に記入する。 ・例文（資料⑦）を参考に発表者の良かった点を英語で伝える。	○リズムに乗せてA～Zまでとthを練習する。 ○感想・評価チェック表を配布し、相互に評価をすることを促す。 ○「聞く」姿勢を作ることで「話し手」の発表が良くなることを伝える。 ○生徒の能力に応じて質問やフィードバックを教師も付け加える。 ○時間短縮の為、発表者の次の生徒は黒板横で待機をさせる。	観察
ま と め	5. 次時の内容を確認する。 6. Reflection		Reflection シート

参考資料2 (ワークシート)

①Reflection (単元計画 英語科教員及び生徒共有用)

1年()組 番 名前()

* 1学期のゴール: 自己紹介スピーチをしよう。

* 単元のゴール: アルファベットの名前と音を正しく発音し, 書くことができる。

- 相手意識を持って, 英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
- アルファベットの音を正しく発音しようとしたり書こうとしたりしている。

[主体的に学習に取り組む態度]

- 自分や身近な事について, 簡単な英語を使ってやりとりや発表をしている。
- 音声で慣れ親しんだ簡単な単語や表現を用いて自分や他者のことについて書いている。
- 友だちの自己紹介を聞き, 感想や評価を英語で発表している。

[思考力・判断力・表現力等]

- アルファベットの名前や音を正しく発音したり, 書いたりできる。(f, th 重視)
- 簡単な挨拶ができる。
- クラスルームイングリッシュを聞いて理解できる。
- 辞書の使い方が分かる。

[知識・技能]

時数	Date	Today's Goal	Today's Menu	振り返り Reflection /Question	Teacher's Sign
1	/ ()	・授業のルールを知ろう。 ・簡単な挨拶や会話をしよう。	①Greeting ②先生の自己紹介 ③Q&A ④授業のルール ⑤Can-Do-List ⑥Reflection		
2	/ ()	・英語の音と文字を一致させよう。 ・教室で普段使う英語を知ろう。	①Greeting ②アルファベットの発音練習 ③アルファベットクイズ ④クラスルームイングリッシュ ⑤ Reflection		
3	/ ()	・身近なことについて英語で話そう。 ・大文字を書こう。	①Greeting ②f, th 発音テスト ③アルファベット大文字 ④基本的な単語や表現 ⑤Reflection		
4	/ ()	・自分の好きな〇〇について話そう。 ・小文字を書こう。	①Greeting ② f, th 発音テスト ③アルファベット小文字 ④基本的な単語や表現 ⑤Reflection		

5	/ ()	・休日によくすることを友達と話そう。	①Greeting ②フォニックステスト(s) ③基本的な単語や表現 ④Reflection		
6	/ ()	・音の足し算をしよう。 ・辞書の使い方をマスターしよう。	①Greeting ②フォニックステスト ③音と文字の関係 ④辞書の使い方 ⑤Reflection		
7	/ ()	・アルファベットの音を書こう。 ・自己紹介スピーチの練習をしよう。	①Greeting ②フォニックステスト ③ディクテーション ④自己紹介作成準備 ⑤Reflection		
8	/ ()	・自己紹介スピーチを発表しよう。	①Greeting ②フォニックス練習 ③スピーチ練習 ④スピーチ発表 ⑤Reflection		

② Grade 1 Class _____ No _____ Name _____

これは何ですか・それは～です

STEP 1 なぞろう

What's this?

It's a dog. / It's an apple.

That's right. / No, it's not.

STEP 1 自分が正解した答えを書こう。

☆ It's a _____

☆ It's a _____

☆ It's an _____

WORD BOX

動物 : dog, cat, rabbit, koala, penguin, raccoon, fox, elephant, monkey

果物 : apple, melon, peach, strawberry, pear, peach, watermelon, banana

身の回りにあるもの : cup, camera, TV, glove, calendar, desk, chair, ball

pen, pencil, book, comic book, notebook, bag, umbrella

③ Grade1 Class ____ No ____ Name _____

私が好きなこと・できること

STEP 1 なぞろう

Do you like English?

Yes, I do. / No, I don't.

Can you play tennis?

Yes, I can. / No, I can't.

STEP 1 自分のことを伝えよう。

☆ I like _____

☆ I play _____

☆ I can _____

WORD BOX

食べ物 : hamburger, steak, fried chicken, pizza, pasta, omelet, curry and rice, ramen

果物 : apples, oranges, pineapple, grapes, melon, strawberries, mangos, bananas, pears

スポーツ : baseball, soccer, volleyball, tennis, basketball, badminton, table tennis

休日にすること

STEP 1 なぞろう

What do you do on weekends?

I enjoy reading books.

I read ONE PIECE.

STEP 1 自分のことを伝えよう。

☆ I enjoy _____

☆ I like _____

☆ I _____

WORD BOX

楽しむこと : watching TV, playing TV games, listening to music, talking with friends

going shopping, visiting grandma's(grandpa's) house, playing sports

playing the piano, going fishing, making sweets, using a smartphone

好きなこと(場所) : soccer, basketball, baseball, volleyball, table tennis, shogi, cookies

pazudora, TSUTAYA, AEON MALL, Obiyamachi, SUNNY AXIS

⑤ Grade1 Class _____ No _____ Name _____

辞書をつかってみよう

STEP 1 辞書についてのクイズ

1. 英語の英和辞書は（ ）順になっている。
2. bとdは（ ）が先にのっている。
3. mとwは（ ）が先にのっている。
4. ①bag と②baby は（ ）が先にのっている。
5. ①rain と②rice と③run は（ ）が一番後にのっている。
6. ①tea と②teach と③teacher では（ ）が一番後にのっている。
7. 単語を英和辞書で引くと、（ ）、（ ）、（ ）、（ ）が分かる。

STEP 2 辞書をつかってみよう。

◆次の英単語から1つ選び、発音・品詞・意味・例文を書きましょう。(それぞれ1つでOK)

spring well book desert light thin

◇選んだ単語

.....
.....
.....
.....

◇品詞 ()

◇意味 ()

◇例文

.....
.....
.....
.....

⑥ Grade1 Class ____ No ____ Name _____

ディクテーション（英語の音を聞いて書きとろう）

英単語の発音を聞いて、次の下線部にアルファベットの1文字を書きましょう。

(1) _____ en



(4) _____ at



(2) s _____ n



(5) _____ ish



(3) ca _____



(6) _____ ank you.



自己紹介文チェックシート

☆自己紹介を書き終わったら、次の項目をチェックしましょう。

友だちの名前

原稿

()

(1) 文の最初は大文字で始め、最後はピリオド(.)で終わっている。

(2) 挨拶と名前からスピーチを始めている。

(3) 文と文のつながり(内容)はよい。

(4) 単語の綴りはていねいに正確に書いている。

(5) 8文以上書いている。

スピーチ

(1) 聞きやすい音量でスピーチしている。

(2) 英語らしい発音でスピーチしている。

(3) 聞きやすいペースでスピーチしている。

(4) アイコンタクトやジェスチャーができています。

(5) 笑顔でスピーチしている。

(6) 原稿を見ずにスピーチしている。

〈資料⑦〉 Grade1 Class _____ No _____ Name _____

スピーチを聞いて・・・

☆優秀者候補（3名，順不同）

() 番 _____ () 番 _____ () 番 _____

☆BEST3には入らなくても、「よく練習した」と感じられる人（3名，順不動）

() 番 _____ () 番 _____ () 番 _____

友だちのスピーチに英語で感想を言ってみよう！

☆発音がよい時…

ユ ア プロナンシエイション イズ グッド
Your pronunciation is good.

☆音量が十分ある時…

ユ ア ヴォリューム イズ ヴェリイ グッド
Your volume is very good.

☆アイコンタクトができている時…

ユ ア アイ コンタクト イズ ナイス
Your eye contact is nice.

☆ジェスチャーができている時…

ユ ア ジェスチャーズ アー グレイト
Your gestures are great.

☆スピーチのペースがちょうどよい時…

ユ ア ペイス イズ パーフェクト
Your pace is perfect.

☆笑顔がいいなと思った時…

アイ ライク ユ ア スマイル
I like your smile.

☆スピーチの内容が良かった時…

アイ エンジョイド ユ ア スピーチ
I enjoyed your speech.

* 英語には誉め言葉がたくさんあります。下線部は自由に変えられます。

Reflection : 感想と課題

Grade1 Class _____ No _____ Name _____

STEP 1 自分の発表を振り返って、A / B / Cで評価しよう。

- ・十分に練習して臨んだ。 【 A / B / C 】
- ・十分な声量でスピーチできた。 【 A / B / C 】
- ・聞き手の反応を見ながらスピーチできた。 【 A / B / C 】
- ・英語らしい発音でスピーチできた。 【 A / B / C 】
- ・適度なスピードで間をとりながらスピーチできた。 【 A / B / C 】
- ・動詞や伝えたい情報の語を強く読めた。 【 A / B / C 】

STEP 2 上手だった友達の優れている点を参考にして、次の発表に向けての目標を書こう。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
